

昭和40年鋳工業生産の動向

まえがき

本誌で作成している昭和35年基準茨城県鋳工業生産指数によつて、昭和40年における本県の鋳工業生産の動向をまとめたので公表いたします。

生産指数は、35年を基準とし、付加価値額をウェイトとする加重平均法により算出されています。しかし、何れにも基準時が古くなつており、35年当時に比して経済環境も拡大されており、産業構造も変化しているのではあるが、基準時を改訂する必要があるわけではありますが、今回は35年基準の指数で生産の動向をまとめました。

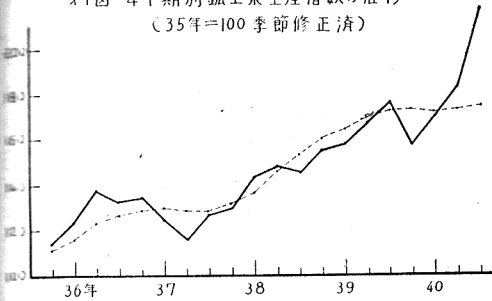
この資料によつて、県内鋳工業界の生産動向をは握され、各種施策の立案あるいは企業経営の資料として御活用いただければ幸いです。

1 概況

昭和40年のわが国経済は、前年末の預金準備率の引下げ、1月の公定歩合1厘引下げによつて金融緩和の方向に進んだのであるが、前年以来不況の産業界には一向に明るさがみられず、ますます深刻さを増していつたのも、更に4月、6月と公定歩合が引下げられ、金融は一層緩和された。しかし、依然として不況現象が続いたため、各種の不況打開策が打ち出された。

このため、一部においては明かるい面もみられるようになったが、経済の実態は大勢としては不況であつた。全国平均の鋳工業生産においても前年に比べ3.8%の上昇率にとどまり、33年に次ぐ低率となつた。従来引き締め政策の実施を契機として鋳工業生産は停滞に転じた。引き締め緩和により回復上昇にむかうのが通例であつたが、第1図にみられるように、今回は引き締め緩和

第1図 4半期別鋳工業生産指数の推移
(35年=100 季節修正済)



により本格的な停滞に入るといふ異例の様相を示したのである。これは、設備投資の減退、在庫投資の縮小、消費支出の伸びの鈍化などによるものといわれているが、一方において輸出は前年に引き続き好調であつた。

このような情勢のなかで、本県における40年の鋳工業生産の動向をみると、前年に比べ10.3%増と全国平均を大きく上回る上昇となつた。この上昇は、年間の推移で見ると9月以降に生産が急増したこと、業種別で見ると電気機械工業、繊維工業およびその他の工業の3業種において比較的高い上昇率を示したためである。しかし、景気回復の指標といわれる一般機械工業では0.3%の微増にとどまつたこと、高い上昇率を示した前述の3業種においても、電気機械工業では配電盤などの閉閉制御装置、その他の工業ではヒューム管など比較的ウェイトの高い品目の伸びが大きかつたが、その他の品目では前年よりも減少しているものが多く、繊維工業では前年の落ち込みを回復したにすぎないことからみれば、全国平均よりも高い上昇を示したのは、これらウェイトの高い特定品目の生産増加によるものであつて、全般的に生産が上昇したわけではないといえよう。

第1表 鋳工業生産指数の推移

(35年=100)

年次別	指 数		対前年比 本 県	上 昇 率 全国(%)
	本 県	全 国		
26	38.0	30.8	—	—
27	46.9	33.0	23.4	7.1
28	53.2	40.3	13.4	22.1
29	46.4	43.7	△12.8	8.4
30	38.0	47.0	△18.1	7.9
31	43.8	57.5	15.3	22.3
32	59.5	67.9	35.8	18.1
33	67.2	66.7	12.9	△1.8
34	86.2	80.1	28.3	20.1
35	100.0	100.0	16.0	24.8
36	126.6	119.4	26.6	19.4
37	126.3	129.3	△0.2	8.3
38	141.2	142.3	11.8	10.1
39	164.0	166.8	16.1	17.2
40	180.9	173.1	10.3	3.8

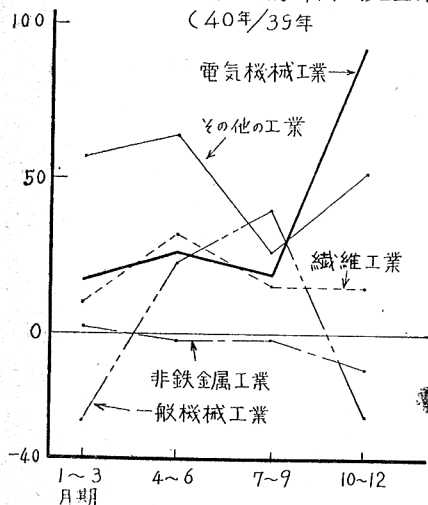
2 産業別の動向

鋳業と製造業に大別してみると、製造業は39年に比べ

11.5%増と鉄工業総合を上回つたが、鉄業は3.3%の減少となつた。製造業の上昇は、その他の工業が49.2%、電気機械工業38.6%、繊維工業17.2%と目立って上昇したためであつて、たばこ工業(33.6%減)、化学工業(17.3%減)などは大きく減少している。これらの業種以外では、上昇したものの5業種、減少したものの6業種となつており、前年よりも減少した業種が多くなつている。また、鉄業では全業種が減少しているが、これは35年以來はじめてのことである。

鉄業は減少しているのに、製造業だけについて上昇寄与率(上昇に影響を与えた割合)をみると、減少業種が多いためもあるが、電気機械工業が96.6%と圧倒的な比重を占めている。これに次ぐものとしては、その他の工業の20.5%があるが、それ以外の業種では目立つたものがなく、上昇の主因は電気機械工業にあつたわけである。これを39年の上昇寄与率と比較してみると、前回第1位の非鉄金属工業は逆にマイナスとなつており、その他比較的高い率を示した業種も、大部分が低率あるいはマイナスとなつている。

第2図 主要工業別前年同期比上昇率比較 (40年/35年)



四半期別の前年同期に対する上昇率をみると、第2図に示すように、年間を通じて比較的高率を示したのはその他の工業で、7~9月期に26.3%と低下したが、その他は50%以上となつている。これに対して電気機械工業は7~9月期までは、それぞれ17.4%、26.7%、19.0%とその他の工業を下回つているが、10~12月期には91.5%と前年同期の倍近い生産増加となつている。

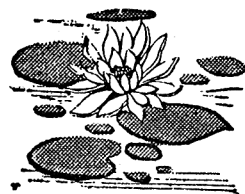
繊維工業は対前年上昇率では17.2%の上昇であるが、

前年同期比上昇率でも1~3月期10.3%、4~6月期31.1%、7~9月期15.1%、10~12月期14.8%となつており、4~6月期に高かつたほかはほぼ同じような傾向を示している。また、非鉄金属工業は7~9月期まではほぼ前年なみの生産であつたが、10~12月期には11.5%の減少となつている。

3 品目別の動き

39年に比べ生産の増加減少が目立つたものを品目別にひろつてみると、

- (1) 電気機械工業では、開閉制御装置の88.6%増が最も大きく、交流電動機2.84%増、変圧器21.5%増、電機掃除機12.6%増がこれに次いでいる。減少したものに直流発電機(60.0%減)、無線応用装置(46.2%減)、水車発電機(42.2%減)、扇風機(32.1%減)、電圧計(21.5%減)、工業計器(17.0%減)、家庭用戸ポンプ(11.9%減)などである。
- (2) 繊維工業では、「メリヤス」が3倍に近い生産増加となつているが、指数そのものでは35年を100として20.7となつており、生産量は低下しているわけである。そのほかでは、漁網50.9%増、既製服38.8%増などが目立つている。
- (3) その他の工業では、ヒューム管の65.9%増、わら工品59.6%増、厚型スレート48.6%増などが大きく、金属洋食器12.6%増がこれに次いでいる。減少したものは金属製がん具(90.1%減)、コンクリートブロック(73.1%減)である。
- (4) そのほか、一般機械では栽培用機器が4倍以上の増加となつたのが大きく、水力タービンの2倍以上にこれに次いで目立つている。また、輸送機械で産業用関車、食料品工業でバターなどがやはり2倍以上の増加となつている。



第2表 産業構成比と上昇寄与率

区分 業別	産業構成比 (%)					上昇寄与率 (%)	
	36年	37年	38年	39年	40年	39年	40年
産業総合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
公益事業	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.7	0.2
鉱業	11.2	11.3	10.4	9.3	8.2	2.6	2.9
製造業	88.2	88.1	89.2	90.2	91.3	96.7	96.9
製造業	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
鉄鋼業	3.4	3.6	3.3	3.5	3.0	6.8	△ 1.5
非鉄金属工業	22.5	17.9	20.5	25.0	21.9	68.9	△ 5.3
機械工業	49.9	53.0	52.4	51.4	56.7	17.9	90.8
一般機械	13.1	12.7	13.1	10.4	9.4	△ 7.3	0.3
電気機械	31.9	32.4	29.5	31.2	39.1	6.6	96.6
輸送機械	4.2	4.8	5.3	5.3	4.4	8.0	△ 2.7
精密機械	0.7	3.1	4.5	4.5	3.8	10.6	△ 3.4
化学工業	2.0	1.8	1.7	1.4	1.1	0.5	△ 2.1
石油、石炭製品 (重化学工業)	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	△ 0.1	0
窯業	78.1	76.6	78.1	81.4	82.8	(94.0)	(81.9)
窯業	2.6	2.6	2.4	2.4	2.2	6.5	0.5
皮革工業	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0
紙パルプ工業	1.3	1.3	1.6	1.5	1.3	1.2	0
繊維工業	2.6	2.6	3.0	2.1	2.2	△ 4.8	2.8
製材業	2.9	2.9	2.6	2.7	2.3	5.2	△ 1.0
食料品工業	5.4	5.4	5.7	5.0	4.6	2.4	2.0
たばこ工業	5.1	5.1	4.2	2.8	1.7	△ 7.1	△ 6.7
その他の工業 (軽工業)	1.9	1.9	2.2	1.9	2.7	2.3	20.5
(軽工業)	21.9	21.9	21.9	18.6	17.2	(6.0)	(18.1)

第3表 産業別対前年比上昇率の比較

区 分 産 業 別	対 前 年 比 上 昇 率 (%)				
	36 年	37 年	38 年	39 年	40 年
産 業 総 合	26.5	△ 0.3	11.6	16.1	10.4
公 益 事 業	△ 3.1	0.4	13.5	23.7	5.1
電 力	△ 9.2	0.0	18.4	29.5	6.3
ガ ス	20.9	1.7	2.0	8.9	2.0
鉱 工 業	26.6	△ 0.2	11.8	16.1	10.3
鉱 業	2.9	0.5	2.2	4.0	△ 3.3
石炭鉱業	1.8	△ 2.6	2.7	3.2	△ 3.9
金属鉱業	3.8	8.5	1.2	0.0	△ 2.2
非金属鉱業	20.1	3.8	0.4	32.8	△ 4.7
製 造 業	29.7	△ 0.3	12.7	17.3	11.5
鉄 鋼 業	28.5	△ 0.1	4.2	26.5	△ 6.1
非鉄金属工業	40.2	△ 23.1	28.6	44.1	△ 3.1
一 般 機 械	55.8	△ 6.5	16.1	△ 6.3	0.3
電 気 機 械	43.8	△ 1.5	2.4	24.9	38.6
輸 送 機 械	93.6	11.1	24.0	19.2	△ 7.1
精 密 機 械	55.5	320.3	63.0	18.3	△ 6.7
窯 業	0.3	△ 1.5	1.9	19.8	1.8
化 学 工 業	7.0	△ 15.2	3.9	3.1	△ 17.3
石油石炭製品	△ 3.8	△ 1.8	△ 17.9	△ 9.7	2.6
皮 革 工 業	17.9	45.9	28.1	16.1	8.1
紙パルプ工業	20.5	24.2	8.4	8.1	△ 0.4
織 維 工 業	42.3	16.1	7.0	△ 18.1	17.2
製 材 業	6.8	5.4	△ 4.1	18.7	△ 0.4
食 料 品 工 業	5.9	12.4	3.1	2.8	3.0
たばこ工業	△ 18.2	△ 9.6	△ 2.6	△ 21.1	△ 33.6
その他の工業	30.2	△ 12.3	42.0	4.6	49.2

第4表 品目別対前年比上昇率(39年/38年)

業 別	上昇率	産 業 別	上昇率	産 業 別	上昇率	産 業 別	上昇率
業 合	10.4	蒸気タービン	△ 54.1	電気計器	△ 8.5	製紙パルプ	△ 0.4
益事業	5.1	水力タービン	101.7	電気測器	△ 21.5	板紙	2.2
電力	6.3	せん孔機	—	工業計器	△ 17.0	洋紙	△ 0.3
ガス	2.0	さく岩機	△ 60.0	無線広用装置	△ 46.2	繊維工業	17.2
工業	10.3	金属工作機械	△ 45.4	輸送機械	△ 7.1	生糸	2.2
業	△ 3.3	圧延機械	8.0	自動車部品	△ 5.4	綿スフ織物	△ 0.8
石炭鉱業	△ 3.9	鉄鋼用ロール	0.6	産業用機関車	101.2	絹人絹織物	6.4
金属鉱業	△ 2.2	ポンプ	△ 7.3	運搬車両	11.8	メリヤス	183.6
金鉱	△ 1.4	エレベーター	△ 6.3	精密機械	△ 6.7	縫製品(既製服)	38.8
銀鉱	△ 2.2	化学機械	34.9	時計	20.8	〃(下着類)	3.2
銅鉱	△ 1.2	耕墾用機械	6.9	光学機械器具	△ 22.2	製綿	△ 7.7
硫化鉱	1.3	栽培用機器	304.8	はかり	△ 5.9	漁網	50.9
砂鉄鉱	△ 86.3	製本及び木工機械	△ 8.1	機械的測定機	△ 21.2	製材業	△ 0.4
タングステン鉱	—	印刷製本機械	△ 16.4	試験機	0	製材	0.4
非金属鉱業	△ 4.7	特殊金田切削工具	△ 7.2	窯業	1.8	食料品工業	3.0
石灰石	3.9	超硬工具	8.8	セメント	1.5	牛乳	14.5
砕石	△ 12.3	作業工具	△ 20.8	ガラス製品	△ 10.2	バター	153.2
製造業	11.5	つるまきばね	12.6	陶磁器	3.4	味噌	2.1
鉄鋼業	△ 6.1	線ばね	6.1	耐火レンガ	34.0	醬油	△ 3.7
鍛鑄	△ 2.3	バルブコック	12.3	石灰	20.3	清酒	6.6
鑄鋼	△ 13.0	鉄構物	76.6	化学工業	△ 17.3	焼酎	△ 16.3
粗鋼	△ 12.4	電気機械	38.6	複合肥料	5.7	小麦粉	9.4
鍛工品	5.6	直流電動機	△ 7.9	硫酸	0	たばこ工業	△ 33.6
銑鉄鑄物	△ 20.1	交流電動機	28.4	高圧ガス	△ 1.9	いこい	31.7
非鉄金属工業	△ 3.1	直流発電機	△ 60.0	活性岩	59.4	みどり	—
精金	△ 15.1	水車発電機	△ 42.2	エチルアルコール	△ 5.7	その他の工業	49.2
精銀	35.0	タービン発電機	8.2	塗料	△ 23.5	金属製かん具	90.1
電気銅	10.5	変圧器	21.5	石油,石炭製品	2.6	金属洋食器	12.6
伸銅品	6.3	開閉制御装置	88.6	コークス	—	コンクリートブロック	△ 73.1
電線ケーブル	△ 4.3	扇風機	△ 32.1	煉炭豆炭	2.6	厚型スレート	48.6
銅合金鑄物	△ 14.2	電気洗たく機	△ 3.1	皮革工業	8.1	ヒューム管	65.9
ダイカスト	2.2	電気掃除機	12.6	製革	8.1	わら工品	59.6
一般機械	0.3	家庭用井戸ポンプ	△ 11.9	革靴	7.1		
ボーラー	△ 35.0	内燃機関の電装品	5.5	紙パルプ	△ 0.4		

第5表 鋳工業生産指数（季節修正済）の月別推移

(35年=100)

年 月	本 県	全 国	年 月	本 県	全 国	年 月	本 県	全 国
35. 1	95.9	91.3	37. 1	129.8	130.8	39. 1	145.7	156.3
2	97.2	94.0	2	133.1	127.6	2	161.8	162.5
3	79.1	95.2	3	139.9	130.2	3	158.1	159.8
4	103.2	97.4	4	125.8	130.5	4	157.8	161.3
5	106.4	97.5	5	125.2	130.7	5	158.9	164.7
6	93.3	98.1	6	126.8	129.6	6	158.2	168.7
7	102.0	100.2	7	112.7	128.3	7	168.2	170.0
8	94.9	102.1	8	114.7	129.5	8	166.4	167.2
9	104.5	103.9	9	120.4	129.7	9	167.7	173.4
10	107.3	105.0	10	124.1	128.6	10	195.1	173.8
11	108.2	107.6	11	126.1	128.6	11	173.7	170.2
12	115.5	107.6	12	132.6	127.3	12	160.1	174.5
36. 1	113.4	112.2	38. 1	136.2	130.0	40. 1	165.9	172.5
2	112.4	110.4	2	126.2	132.3	2	152.6	172.0
3	116.6	113.5	3	129.5	131.9	3	154.5	173.8
4	120.9	114.5	4	151.2	137.2	4	156.3	172.0
5	126.7	116.8	5	137.6	137.2	5	162.9	168.7
6	125.3	118.8	6	139.3	138.6	6	190.4	174.1
7	123.5	121.6	7	147.0	145.5	7	170.0	174.1
8	144.5	123.7	8	151.4	145.4	8	171.0	169.8
9	142.5	123.4	9	144.9	148.5	9	205.0	175.5
10	142.0	125.8	10	137.0	152.1	10	218.8	173.5
11	130.8	126.5	11	156.9	154.9	11	217.1	173.9
12	126.4	127.5	12	143.2	155.3	12	216.6	175.8